2022年年3月26日(土曜日)

府中市立中央図書館イベント

ビジネス支援企画 まちの企業講演会シリーズ

「生まれは天保十四年 大國魂神社のしめのうち 府中の酒屋の処世術」

開催報告

「まちの企業講演会」は地域の元気な企業からしごとの楽しさや難しさ、創意工夫をお話しいただくイベントです。2021年度は、府中で170年の歴史を持つ老舗酒屋「しめのうち」の営みと挑戦を、代表取締役の大室元氏にお話しいただきました。

「しめのうち」は天保十四年に創業、明治初期に大國魂神社の境内で開業し、宮司からしめ縄の内側を意味した「しめのうち」という屋号を付けていただいたという歴史をお持ちの酒販会社です。明治以降は神社の側道に移転され、現在は業務用と個人向けの販売所として営業しながら、居酒屋経営もされています。

老舗酒屋に生まれた大室さんは、京都の酒造会社「月桂冠」に就職し、13年間の勤務を経て、「しめのうち」に入社されました。

2003年の酒類販売免許自由化以降、酒販店の現状は厳しく、「まちの酒屋」の生き残りは難しくなりました。

そこで、大室さんは、スーパーやコンビニができないことをやろうとネットショップを開設し、教育・コミュニティ事業の運営、立ち飲みや「直会(なおらい)スタンド宮」の開業、蔵見学、日本酒セミナー講師など、「お酒を通じて人と出会い、交流し、笑い、活力に変えていく。ビジネスを繋ぎ、共に成長していく」ための様々な活動をされたそうです。

多くの工夫や試みをされる中、酒販業界にとって試練のコロナ禍が訪れました。

小学校の時に書いた将来の夢は「酒屋になっていると思う」。

暖簾を守りなさい
食・酒を通じて社会を豊かに。また、新たな事業への挑戦

地域に貢献しなさい
府中の商業活性化、まちづくり、ひとづくり、人をつなぐ

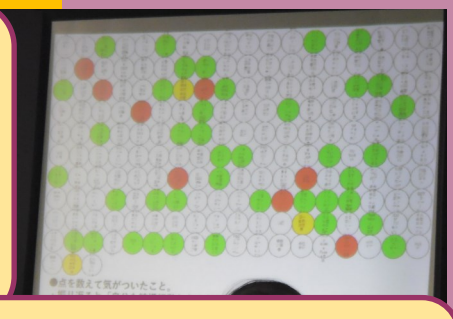
神社を守りなさい
先祖代々ご奉仕してきた大國魂神社を守る、郷土を守る、心の拠り所づくり、賑わいの創出

大室家の家訓(的なもの)

コロナ禍でご自身と対峙し見えてきたこと。

「点を打つ、種を蒔く」
いままでやってきたことが必然で必要だったと知る。

「未来から逆算して、欲しい未来を得る」



今まで試みたこと、足を運んだこと、人との縁、様々な布石が打たれました。これらが重なり、新しい挑戦や事業につながりました。

実現したいこととは…
・自分の感性を大切に、他人の価値観を尊重した寛容な社会の実現。
・食や酒を通じて、笑顔が増える未来をつくること。
・府中で「ここにしかないサービス」を生み出し、府中を元気にする。

・人は失敗からしか、成長しない（できない）
・つまり、「過去は変えられる」（過去に起きた事実は変えられないが、事実は定義し直すことことができる）

会社が利益をきちんと出す、ということに再度着目。
・やることを広げすぎると、事業の一貫性がない。
・一番やりたいことは何なのか。
・利益を出す仕組みを作らねば、
という課題が見えてきた。

残念ながら、新たな事業は失敗することもありました。しかし、失敗から見えたこともたくさんあったそうです。

経験と縁を積み重ねられた大室さんのお話は、とても誠実で、多くの参加者の皆さまの共感を得ました。お話の最後には日本酒についてのレクチャーもありました。

「老舗はチャレンジしたから続いている」

「しめのうち」のこれからを、ぜひ応援したいと思います。